

冬の昆虫観察会（平成31年2月3日開催）

野路会（のみちのかい）の井上智雄さんを講師に迎えて「冬の昆虫観察会」を開催しました。参加者は大人17人、子ども17人でした。

「わらまき」の下で越冬している昆虫を観察

桶ヶ谷沼周辺のスギやヒノキの幹に巻いておいた「わらまき」をはずして、どんな生き物が越冬（えっとう）しているかを観察しました。

「わらまき」は、昆虫やクモなどの小動物が身をかくすため樹木皮へ潜り込む（もぐりこむ）習性を利用して、「むしろ」や「たたみおもて」を夏に幹に巻いておいたものです。この「わらまき」を使って樹木に集まりすんでいる小動物の種類や数を調べることで、その付近の環境の自然度をはかる目安にすることができます。

- ① さあ、わらまきをはずしていくよ！小さな虫が地面に落ちないように、下で虫網（むしあみ）を構えます。



- ② わらまきをはずしながら、木の幹に目をこらします。はずした「むしろ」の内側にも虫がいるかもしれないから気をつけて見てね。



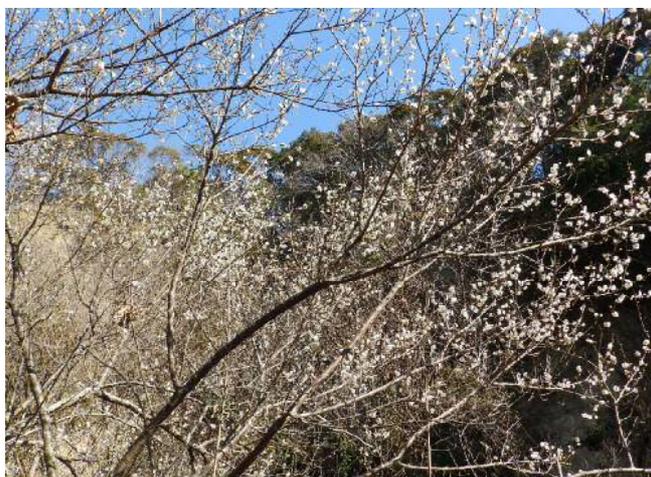
- ③ 講師からクモや昆虫の種類を教わると子どもたちはすぐに覚えて、さっそく種類を見分けては小さな生き物の数を数えていました。



- ④ 体長 5 ミリから 15 ミリくらいの小さなクモやコウチュウやカメムシの仲間などが見つかりました。



ヤニサシガメの幼虫 (体長 8~9 mm)



…ウメも開花し、晴天の観察会でした…